

新田原の訓練部隊の小松移転に反対し、受け入れないことを求める申し入れ

航空自衛隊小松基地司令 南雲憲一郎殿

2015年9月9日 日本共産党石川県委員会

(委員長 秋元邦宏)

〃 加南地区委員会

(委員長 本田正和)

「米軍来るな！市民連絡会」

(代表委員 東 洋子)

「清潔で明るい小松をつくる会」

(代表委員 牧野逸子)

石川県平和委員会

(事務局長 山野健治)

さる8月31日、防衛省近畿中部防衛局は小松市に対して「飛行教導群の新田原基地から小松基地への移動について」申し入れた。申し入れによると「周辺国の航空戦力が急速に近代化し、増勢するといった安全保障環境の変化をふまえ」「(新田原基地の)飛行教導群を小松基地に移動させ」ることとした、となっている。

しかしながら、「スクランブル発進が過去最大になった」ことで「安全保障環境の変化」などと言われているが、他国籍機による「領空侵犯」はなく、意図的な喧伝といわなければならない。逆に小松基地所属のF15戦闘機が、米軍戦略爆撃機と戦闘訓練を行うなど、「専守防衛」どころか、「他国を攻撃する」態勢に組み込まれつつあることは重大である。沖縄のブラックホークの事故も、国民の知らないところでこうした訓練が行われていたことを示すものである。

同時に、小松基地ではこの間、胴体着陸や燃料タンクの破裂など、F15戦闘機の事故が相次ぎ、土日、夜間の訓練などで騒音被害もひどく、周辺住民から「一体どうなっているんだ」という声が聞かれている。この間の爆音訴訟では、「受忍限度を超える」騒音被害が認定され、それでもますますひどくなる騒音被害に、第5次、6次の訴訟も行われている状況である。基地側はその都度「安全対策」「騒音対策」を口にするが、一向に改善されず、拡大する一方である。また米軍との共同訓練に対する不安も大きい。

こうした時に、「飛行教導群」としてF15戦闘機を増やし、訓練を強化することは「安全対策」「騒音対策」に逆行するきわめて重大な問題である。これまでの言明に対してこんな無責任で、住民無視のやり方は、とても認められるものではない。

今国会では「安保法案」が審議されているが、国民の多くはその実態が「戦争法案」であることを見ぬきつつある。同時に米軍の指揮のもとに、米軍とともに他国を攻撃するこの法案が、自衛隊の独走で国会でも説明されていないことまで具体化、研究されている中で、小松基地が部隊を増強し、訓練を強化することは、きわめて重大であり、ますます市民を危険に追い込むものである。以上の点から、新田原の飛行教導群の小松基地への移転は、絶対に受け入れないよう強く求めるものである。